

# 聖なる神——イザヤの召命

イザヤ 6 : 1 - 8



司祭 ヨハネ 井田 泉

2022年6月12日  
三位一体主日・聖霊降臨後第1主日

敦賀基督教会にて

今日の旧約聖書はイザヤ書でした。預言者イザヤは紀元前8世紀、イエスさまよりも700年以上も前の人ですが、イエスさまとは深くつながっている人物です。たとえば、こんなつながりがあります。

イエスが故郷のナザレに帰り、会堂礼拝に出席されたとき、聖書の朗読をされたことがルカ福音書に記されています。そのときにイエスが朗読されたのが「イザヤの巻物」でした。

「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。……」

ルカ4:18

このようにイザヤ書の朗読を始めて、その後イエスは説教されたのでした。

今日の箇所、イザヤ書第6章は預言者イザヤの召命物語です。時は紀元前8世紀、場所はエルサレムの神殿です。若者イザヤはひとり神殿で祈っていました。世の中に満ちている悪に怒り、人々の不信仰と不真実を神に訴えました。同時に、その現実をどうすることもできない自分の無力を嘆きました。そのようにして祈っているうちに思いがけないことが起こりました。目の前に神がおられることを感じたのです。

「わたしは、高く天にある御座みざに主が座しておられるのを見た。衣の裾は神殿いっぱい広がっていた。」イザヤ6:1

イザヤは神を見た。見たと言っても実際に見たのは、神の衣の裾が神殿いっぱい広がっている光景ですが、予想もしなかった、息を呑む、恐ろしい経験です。

翼を持つセラフィムが飛びつつ呼び交わします。

『聖なる、聖なる、聖なる万軍の主。主の栄光は、地をすべて覆う。』この呼び交わす声によって、神殿の入り口の敷居は揺れ動き、神殿は煙に満たされた。」イザヤ6:3-4

イザヤは、この聖なる神の前に自分は滅びてしまう、と感じてうめきました。

「災いだ。わたしは滅ぼされる。わたしは汚れた唇の者。汚れた唇の民の中に住む者。しかも、わたしの目は、王なる万軍の主を仰ぎ見た。」6:5

彼はこの墮落した社会に憤り、正しいと思うことを語り叫んできたのでしょう。しかしその自分自身の心も自分の唇も清くない。聖なる神の前に、高慢で汚れた自分が隠しようもなくあらわになりました。

「災いだ。わたしは滅ぼされる。わたしは汚れた唇の者。」

そのような汚れた自分が、聖なる神を見てしまった。

ところがこのイザヤのところに、翼を持った天使セラフィムのひとりが飛んできました。セラフィムの持つ火箸には、祭壇

から取った炭火が燃えていました。セラフィムはその燃える炭火をイザヤの唇に押し当てました。イザヤの唇は焼かれました。大やけどをして自分は死ぬと彼は思いました。

ところがセラフィムは言いました。

**「見よ、これがあなたの唇に触れたので、あなたの<sup>とが</sup>咎は取り去られ、罪は赦された。」** 6:7

唇に押し当てられた炭火は、彼を滅ぼすのではなく、彼を清め赦す神の愛の火だったのです。彼の胸にわだかまっていた重いものは取り去られ、すがすがしく呼吸ができます。赦され清められた喜びと感謝が溢れてきます。

このとき、イザヤは神の声を聴きました。天上から聞こえる声です。神は天使たちを集めて、会議をなさっておられるのでしょうか。

**「誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだろうか。」** 6:8  
イザヤは答えて言いました。

**「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください。」** 6:8  
彼は、神の前に自分を差し出しました。

**「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください。」**

神はこのイザヤの申し出を受け容れ、彼を預言者とされました。清められた彼の唇には神の言葉が与えられます。ここからイザヤの新しい人生が始まります。

イザヤは神の促しに従って世の悪を責めました。人々の心を神に立ち帰らせるために力を尽くしました。イザヤ書から響いてくる彼の祈りをひとつ聞きましょう。

「まことに、あなたは弱い者の砦／苦難に遭う貧しい者の砦／豪雨を逃れる避け所、暑さを避ける陰となられる。暴虐な者の勢いは壁をたたく豪雨。」イザヤ25:4

弱い者、虐げられた者を神さまが深く心にとめて守ろうとしておられる。そのことを深く感じてイザヤは祈りました。

イザヤの活動は40年にわたったと言われます。長い預言者としての働きの中で、疲れ果て、心も体も枯渇してしまうことがありました。そのようなときに、神は彼に幻（ビジョン）を示されました。

「ついに、我々の上に／霊が高い天から注がれる。荒れ野は園となり／園は森と見なされる。そのとき、荒れ野に公平が宿り／園に正義が住まう。

正義が造り出すものは平和であり／正義が生み出すものは／とこしえに安らかな信頼である。」イザヤ32:15-17

長い苦しみがあって、祈り求めがあって、ついに、ついに神の霊が人々の上に注がれる。神の霊の注ぎによって、荒れ野は緑したたる園となる。荒れ野のような社会に公平が宿り、正義

が平和を造り出し、安らかな神への信頼を生み出す。神の霊が人々を潤しつつ、それを実現していかれます。

荒野を緑の園とする神の霊は、イザヤに注がれ、やがて時至ってイエスに注がれました。そしてその神の霊は、洗礼においてわたしたちにも注がれたし、これからも注がれるのです。

かつて困難な時代に、神さまは、神のために働く人を求められました。神さまは今の時代にも、神のために働く人を求めておられます。特別な人だけではなく、神はわたしたちを招いておられます。わたしたちが自分の平安と安泰だけを求めて過ごすのではなく、神さまのために、隣人のために、教会と社会のために、自分を差し出すようにと招いておられます。

祈ります。

かつてイザヤにご自身を現された神さま、わたしたちにもご自身を現してください。あなたの愛の火によってわたしたちを清め、赦してください。わたしたちが自分の平安と安泰のみを求めるのではなく、あなたの良き働きのために自分を差し出すことができますように。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン